

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。
 ※「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。
 ※「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る

(1) 教志コース（教員養成系コース）を定着させる。

- ア 1年生を対象にコースの意義・目的・学習内容等のガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。
- イ 2年生から開設する専門科目とりわけ「教志入門」の内容の充実や、コース生のクラス編成や時間割編成も含めて1年間を通じた効果的な運営方法を確立する。
- ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

※ 教志コースを含めて、志高く（高校での目標を持って）入学してきた生徒の割合を70%以上にする。
 ※ 平成28年度入学生のうち、コース選択生徒の卒業時の満足度を80%以上にする。

(2) 学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。

- ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定する。
 - イ 授業の相互見学制度、教科ごとの研究授業を実施し、教科教育力の向上を図る。
 - ウ 積極的に上位校を狙う生徒や遅進生徒に対する指導の現状を集約し、対象生徒の状況（課題）に応じた支援をコーディネートする。
 - エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における学力向上・進路目標実現に向けての生徒の努力度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で70%以上とする。
 ※ 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生120分以上、2年生140分以上、3年生200分以上とする。
 （平成27年度はそれぞれ52.8分、60.3分、188.9分）
 ※ 進学実績について、生徒の第一希望を叶えることを目標として、大学進学希望者について、3年生1学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合90%以上にする（平成27年度実績は、85.88% 大学進学希望者に対する産近工龍（工は大工大）等の大学への合格率は40.4%、関関同立、国公立大学等への合格率は19.5%）。

2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる学校作り

- (1) 規範意識の高揚を図る—遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー等。
- (2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する—あいさつ指導、環境（学習・生活）整備、高いレベルでの文武両道（学校行事・部活動の推進）、（障害者差別解消法に規定された）合理的配慮の合意形成
- (3) 学校行事等の取り組みで生徒主体化を図る。
 ※ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で90%以上とする。

3 学校運営—プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

- (1) 実務提要管理—電子データ化された実務提要（学校内規）の管理及び引継ぎ体制の構築。
- (2) ICTの積極的活用—校務運営システム（府教委）と校内LANを最大限活用して生徒情報総合管理システムを構築し、校務運営の効率化を図る。
- (3) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修を通して、力量の向上を図る。
- (4) 教志コース定着、教育課程改編、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。
- (5) 高大連携の推進—教志コースの内容の充実をめざす。
- (6) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協会への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、一層地域からの信頼を高める。
 ※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。
 ※ 北高アカデメイアの参加者数を180人以上（昨年度は193人）、満足度を95%以上とする。

4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等を通して、本校の取組の周知を図る。
- (2) アドミッションポリシーの周知

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学力・進学保障】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度の上昇傾向や個別課題の提示により、平日の授業以外での一日の平均勉強時間が100分超となった。 ・教員による授業相互見学に加え、教科ごとの研究授業を実施し、生徒の授業満足度は1学期末81%、2学期末80.1%であり、目標を達成した。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活における満足度、行事や部活動に主体的に参加している生徒の割合とも昨年度と同様に80%超であった。 	<p>【第1回（7月8日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月段階での国公立大学希望者をどう指導し、進学につなげるかを協議してほしい。 ・自転車の問題を自分のこととして捉える指導を検討してほしい。 ・教志コース生の進路先や追跡調査をし、今後に役立てるよう取り組んでほしい。 <p>【第2回（12月16日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関する満足度において否定的な回答をしている生徒へはどう対応しているか。そのような生徒へのサポート策を講じてほしい。 ・自転車のルール・マナー向上には、生徒が主体的に関わる形で行ってほしい。 ・41期生からの教育課程の改定は今後の教育動向を見据えてのものとして評価できる。生

府立高槻北高等学校

<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を設置したことやパッケージ研修によるアクティブラーニングの推進を図ったことにより、教員の授業工夫が進んだ。 	<p>徒の学力向上に向け一層授業の工夫・改善に向け努めてほしい。</p> <p>【第3回（2月10日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の指導・支援については、家庭との連携をはじめ中・高校の生徒指導部・保健部等との連携も図りながら適切な対応を進めてもらいたい。 アンケート結果を公開し、生徒・保護者にも当事者意識を持ってもらい、生徒・教員・保護者が『一緒になって』学校を良くしていくよう訴えていく。 ベテラン教員から若手教員に様々なことを継承する場や機会を増やす。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>学力・進学保障</p>	<p>「教科教育力の向上強化年」</p> <p>(1) 教志コースの定着</p> <p>(2) 生徒の学力の向上と進路目標実現に向けての組織力の向上</p>	<p>(1) 生徒のモチベーション向上</p> <p>ア 教志コース委員会メンバーが中心となって、1年生(40期生)に対するコース選択に向けての取組の具体(ガイダンス・イベント等)について計画し、実践する。</p> <p>イ 教志コース委員会メンバーがそれぞれ担当する専門科目の内容や具体的運営方法を構築し実践する。</p> <p>ウ 読書活動推進のため、図書館活性化を図る。</p> <p>(2) 教科教育力向上のためのシステム構築</p> <p>ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定し、定期考査等の結果から取組の点検・評価を行う。</p> <p>イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなど、ICTを活用した授業を実施することにより、思考力、判断力、表現力の向上につなげる。</p> <p>ウ 授業の相互見学制度・教科ごとの研究授業の導入等から、教科教育力の向上を図る。</p> <p>エ 北高スタンダードの活用：学力向上・進路目標実現に向けた取組（下記①～⑦等）について、効果的な実践を図る（特に懇談の充実を図る）。</p> <p>① 定期考査・学力生活実態調査・模試</p> <p>② 各種検定（漢検・数検・英検等）の推進</p> <p>③ A・B講座・チャレンジ合宿等の補習・講習</p> <p>④ 懇談（生徒・保護者・三者・クラス・学年）</p> <p>⑤ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学</p> <p>⑥ 担任会・拡大学年会・教育相談委員会</p> <p>⑦ 追認関係・判定会議</p> <p>オ めざす学習環境のため教室環境と授業規律の確立</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 教志コース生としての取組の満足度80%以上。</p> <p>* 平成28年度入学生生のアンケート結果における、目標(教志コースを含む)を持ち本校を受験した生徒の割合80%以上。</p> <p>ウ 図書館利用者数(書籍貸出数)前年度比15%増加</p> <p>(2)</p> <p>ア 設定したものをホームページに載せることや、その点検・評価ができたか。</p> <p>ウ 教員の相互見学率100%、教科ごと研究公開授業1回以上、生徒の授業満足度80%以上。</p> <p>エ 活用度</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生60分以上、2年生70分以上、3年生200分以上とする。</p> <p>* 進学実績について平成28年度の卒業生までに、4年制大学進学希望者について、3年生4月当初の進路希望先を達成できた生徒の割合を80%以上にする。（なお、めやすとして産近工龍等の大学合格者を40%以上(平成27年度は40.4%)に、関関同立、国公立大学等の大学合格者を25%以上(平成27年度は19.5%)とする。）</p> <p>* 各種検定への延べ参加人数 前年度比50%増加</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 教志コース生のプレゼンテーションの機会を増やすなど、授業内容を充実した。満足度は、2年100%、3年81.8%。(○)</p> <p>* 1学期末のアンケートでは「高校生活に目標を持っている」と答えた1年生は69.9%。(△)</p> <p>ウ 図書館をよく利用した生徒は24.8%。貸出冊数は330冊(△)。</p> <p>(2)</p> <p>ア ホームページに掲載した。(○)</p> <p>ウ 教員の相互見学79%、研究授業を実施した。生徒の授業満足度80.1%。(○)</p> <p>エ 北高スタンダードを活用すると共に定期考査に関わる規程を見直し、改定した。(○)</p> <p>* 2学期末の生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間は、1年51.5分、2年57.6分、3年214.4分であり、3年生は目標値に達した。(○)</p> <p>* 進路希望先を達成した生徒の割合83.6%(◎)</p> <p>* 各種検定への延べ参加人数340名。前年度95名(前年度は漢検・数検のみ集計)に比べ増加。(◎)</p>
	<p>「時を守り、場を清め、礼を正す」</p> <p>(1) 規範意識の高揚</p> <p>(2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進</p>	<p>(1) 遅刻・制服・自転車・携帯・自主活動指導</p> <p>ア 日常の指導や身だしなみマナー向上週間、及び保護者へのメールマガジン等を活用すると共に、一か月で3回以上遅刻した生徒に対する早朝登校指導や、常習者に対する指導強化を行うなど、頭髪、装飾品も含めた規範意識の高揚を図る。</p> <p>イ 年度当初の取組や生徒指導キャンペーン及び外部機関を活用して、自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>ウ 携帯を研修や啓発活動により正しく利用させる。</p> <p>エ 部活・学校行事を生徒主体で取り組ませる。</p> <p>(2) 清掃・環境・挨拶</p> <p>ア 教室・廊下などの清掃活動の徹底。</p> <p>イ 安心・安全で充実した学習環境・生活環境を確保するため、安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図る。</p> <p>ウ 施設・設備の改善(トイレ等)、(トイレは学校評価アンケートでの要望が最も多い)</p> <p>エ 全教職員・生徒があたり前に挨拶ができるよう、集会や朝の正門、授業の開始・終了時など、あらゆる機会を活用して指導する。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加</p> <p>カ 献血活動(文化祭時)の啓発</p> <p>キ 支援カードの利用による支援教育の充実</p> <p>ク 合理的配慮の合意形成を円滑に進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻者数を1日平均20回(平成27年度は30回)以内にす。</p> <p>イ 自転車マナーが向上したと感じている生徒80%以上。</p> <p>ウ 携帯指導件数年間20件以内</p> <p>エ 主体的に取り組めた生徒80%以上。</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度85%以上(平成27年度は83.9%)。</p> <p>(2)</p> <p>アイ 生徒向け学校教育自己診断における学習環境・生活環境の満足度80%以上(平成27年度は79.1%)。</p> <p>ウ 施設・設備の改善認識50%以上。</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における挨拶をしている生徒80%以上(平成27年度は75.4%)。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加</p> <p>カ 生徒の献血意義の認識70%以上。</p> <p>キ 支援カード有効活用の認識60%以上。</p> <p>ク 合意形成についての認識80%以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻者は年間でのべ118名減少し、1日平均で15回に減少した。(◎)</p> <p>イ 自転車マナーが向上したと感じている生徒は76.2%。(△)</p> <p>ウ 携帯指導件数49件。(△)</p> <p>エ 部活動等に主体的に取り組めた生徒は83.1%。(◎)</p> <p>* 満足度は同じく83.9%。(○)</p> <p>(2)</p> <p>アイ 学習環境・生活環境の満足度は77.5%。(○)</p> <p>ウ 施設・設備の改善認識64.2%。(◎)</p> <p>エ 挨拶をしている生徒80.9%。保護者への同様の項目では、挨拶する生徒は81.8%。(○)。</p> <p>オ 救急講習参加者57名(△)</p> <p>カ 生徒の献血意義の認識89.9%。(◎)</p> <p>キ 支援カード有効活用の認識43.6%。(△)</p> <p>ク 合意形成についての認識73.8%。(△)</p>

府立高槻北高等学校

学校運営	<p>(1) 学校力の向上</p> <p>(2) 教師力の向上</p> <p>(3) 地域連携</p>	<p>(1-a) 実務提要の活用 ア 実務提要の効果的な利用 イ 適切な改善・引き継ぎ方法の策定</p> <p>(1-b) ICT活用 ア 校務処理システムを活用し、校務運営の効率化を図る。</p> <p>(2-a) 新任・若手教員の力量向上 ア 校内研修・小学校に向向いの研修・高槻島本地区新任研修などを実施する。</p> <p>(2-b) 教科会議の充実 ア 授業のユニバーサルデザイン化を検討する。</p> <p>(3) 取組の定着・推進 ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。</p>	<p>(1-a) ア 教職員の利用割合 90% 以上。 イ 遅滞なく改善されているか。</p> <p>(1-b) ア 効率化が図れているか。積極的に活用する教職員 80% 以上。</p> <p>(2-a) ア 新任・若手教員の満足度 80% 以上。</p> <p>(2-b) ア 教職員の改善認識 80% 以上。</p> <p>(3) ア アカデメイア参加者数 180 人以上、満足度 95% 以上。</p>	<p>(1-a) ア 教職員の利用割合 83.3%。(△) イ 引継ぎ事項の整理 88.1%。(○)</p> <p>(1-b) ア 積極的活用 88.1%。(○)</p> <p>(2-a) ア 新任等の満足度 61.5%。(△)</p> <p>(2-b) ア 教職員の改善認識 56.1%。(△)</p> <p>(3) ア アカデメイア参加者数 225 名、満足度 95.5%。(○)</p>
広報	<p>(1) 広報活動の強化</p>	<p>(1) 情報発信 ア 次の取組を通し、本校の教育内容の周知を図る。 学校説明会 ホームページ メールマガジン 北高NOW イ アドミッションポリシーの周知</p>	<p>(1) ア 学校説明会－8 回以上実施・(学外での) 教員参加率 40% 以上、アンケートによる参加者満足度 90% 以上。ホームページ 50 更新及び全部活・全行事更新、6 万アクセス。メールマガジン 40 以上配信。北高NOW年 8 回発行。 イ アンケートによる理解度 90% 以上。</p>	<p>(1) ア 学校説明会－9 回実施、教員参加率 42.6%。アンケートによる参加者満足度 98%、ホームページ 93 回更新、アクセス約 6000 件、メールマガジン 46 回配信、北高NOW 6 回 (1 月末現在)。(○) イ アドミッションポリシーを理解し入学した 1 年生 78%。(△)</p>